

考古学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 学期	曜日	講時	頁	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
考古学特論Ⅰ	日本考古学の諸問題	2	鹿又 喜隆	2学期	木	2	1	考古学特論Ⅰ
考古学特論Ⅱ	先史考古学資料論	2	阿子島 香	2学期	月	3	2	考古学特論Ⅱ
考古学特論Ⅲ	考古学と狩猟採集民研究	2	池谷 和信	集中(1学期)			4	考古学特論Ⅲ
考古学特論Ⅳ	先史文化の考古学	2	菅野 智則	1学期	木	4	5	資料基礎論特論
考古学研究演習Ⅰ	考古学研究史	2	阿子島 香	1学期	金	4	6	考古学研究演習Ⅰ
考古学研究演習Ⅱ	考古学の方法と理論	2	鹿又 喜隆	2学期	金	4	7	考古学研究演習Ⅱ
考古学研究実習Ⅰ	考古学の調査と資料分析(1)	2	阿子島 香	1学期	水	3・4	8	考古学研究実習Ⅰ
考古学研究実習Ⅱ	考古学の調査と資料分析(2)	2	鹿又 喜隆	2学期	水	3・4	9	考古学研究実習Ⅱ

科目名：考古学特論 I / Archaeology(Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

学期：2 学期, **単位数：**2

担当教員：鹿又 喜隆 (准教授)

講義コード：LM24204, **科目ナンバリング：**LJS-HIS619J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 考古学特論 I 】

1. 授業題目：

日本考古学の諸問題

2. Course Title (授業題目)：

Advanced Lecture of Japanese Archaeology

3. 授業の目的と概要：

この講義では、日本の考古学研究史を通して、日本考古学の独自性と特徴を研究史を通して学びます。また、近年の考古学の課題や問題点を明示し、その解決方法に関する具体的例を解説します。特に、先史時代を主な対象として、自然環境や社会環境と、人類行動の関係を把握します。

4. 学習の到達目標：

(1) 考古学研究の歴史を理解する。(2) 現在の考古学研究の方法を理解する。(3) 人類が自然・社会・文化とのかかわりの中で生きてきていることを理解する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は、講義中心です。毎回、パワーポイントのプレゼンテーションにより講義を進めます。内容とスケジュールは以下の通りです。

1. 講義ガイダンス
2. 考古学の理論と方法 (1)
3. 抽象性の理解
4. 考古学の理論と方法 (2)
5. 寒冷適応
6. 環境変動の基礎的理解
7. 比較文化研究
8. 温暖適応
9. 災害と遺跡
10. 石刃技法をめぐる諸問題
11. 研究倫理と前期旧石器時代遺跡捏造事件
12. ヒトの姿を追って
13. 完新世の温暖化適応
14. 農耕の成立と展開
15. 植物利用の多様化

6. 成績評価方法：

(○) 筆記試験 [70%]・ (○) 出席 [30%]

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考文献を講義中に随時提示する。

8. 授業時間外学習：

講義内で試験課題に対応した設問をおこなうので、時間外に文献などで調べること。

9. その他：なし

オフィスアワー：水曜日 16:20～17:00

科目名：考古学特論Ⅱ／ Archaeology(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

学期：2 学期, **単位数：**2

担当教員：阿子島 香 (教授)

講義コード：LM21302, **科目ナンバリング：**LJS-HIS620J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 考古学特論Ⅱ 】

1. 授業題目：

先史考古学資料論

2. Course Title (授業題目)：

Research Method of Prehistoric Archaeology

3. 授業の目的と概要：

この授業では、考古学の修士論文の準備として、先史時代の考古学資料研究の現状と課題について、発掘調査資料の基礎的な特質に応じた実証的な研究方法の理解を深める。西ヨーロッパ（特にフランス南部）、北米（特にアメリカのグレートプレーンズ地域）、東アジア（特に韓半島、ロシアサハリン）など、世界各地の遺跡を比較文化的視点で考察する。旧石器時代を中心とする事例研究の中から、問題点を選択して詳説する。年代論、機能論、分布論のもつ意義を考察する。また理論的には、人類学の一分野であるアメリカの「プロセス考古学」学派による研究史、遺跡・遺物の分析法を学ぶ。受講者の関心をフィードバックしながら、タイポロジー（型式学）、遺物の使用痕分析、遺物の空間分布、石器製作技術、統計的方法など、分析方法を解説する。

期末レポートにおいては、受講者は全員、日本国内の発掘調査報告書を各自の関心に従って選択し、先史時代遺跡から発掘された資料の事実記録に基づいて、各自がデータの分析を実際に試みる。

4. 学習の到達目標：

先史時代の遺跡・遺構・遺物の特質を、資料にそくして理解できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス。授業の構成と成績評価基準の説明。旧「キュレイター養成コース」の授業としての説明。アメリカ考古学の特質（1）。

2. アメリカ考古学の特質（2）。「人類学としての考古学」パラダイムと、日本の埋蔵文化財の考古学との比較。

3. アメリカ考古学の歴史（1）。1960年代のニューアーケオロジーと、その研究事例、社会的背景。ムスチエ文化論争の意義。

4. アメリカ考古学の歴史（2）。1970年代の「プロセス考古学」と、民族考古学の「ミドルレンジセオリー」の本質をめぐって。

5. ルイス・ビンフォードの考古学とミドルレンジセオリーの実践（1）。

6. ルイス・ビンフォードの考古学とミドルレンジセオリーの実践（2）。

7. 各国考古学の研究伝統と学史の特質。日本考古学、アジアの考古学、ヨーロッパの考古学の研究事例から（1）。

8. 各国考古学の研究伝統と学史の特質。日本考古学、アジアの考古学、ヨーロッパの考古学の研究事例から（2）。

9. 各国考古学の研究伝統と学史の特質。日本考古学、アジアの考古学、ヨーロッパの考古学の研究事例から（3）。

10. 課題レポートの解説（1）。対象とする遺跡の選択と調査報告書の特質。埋蔵文化財保護と考古学研究との関係をめぐって。

11. 課題レポートの解説（2）。発掘調査報告書における事実記載と解釈、考察の判断基準の問題をめぐって。

12. 先史考古学方法論の諸問題（1）。型式学と人間集団論および年代学。

13. 先史考古学方法論の諸問題（2）。機能論と使用痕分析法。

14. 先史考古学方法論の諸問題（3）。遺跡内での遺物分布。人間活動の復元。

15. 先史考古学の国際的展望。レポート提出。

6. 成績評価方法：

(○) レポート [60%]・(○) 出席 [40%]

7. 教科書および参考書：

参考文献について、随時教室で指示。毎回、資料としてプリントを配布する（主として英語）。英語を訳して読んでおくなど、授業以外での学習も重要である。

8. 授業時間外学習：

各回の講義のトピックに関して、各自で参考文献を学習し、理解を深める。配布プリントの内容に関連した事項について、文献読解を行なう。レポートの対象とする「発掘調査報告書」は、各自の関心に応じて附属図書館の地下書庫で、配架されている埋蔵文化財報告書を探求し、レポート課題として選択する。

9. その他：なし

セメスター期間中を通じて、考古学や埋蔵文化財関連の行事、研究会・学会、説明会等を、そのつど紹介・解説するので、受講者は積極的に参加し、この授業と関連するテーマについての理解を深めていくことが望ましい。考古学専攻分野の活動等との関連で、授業内容に若干のスケジュール調整あり。

科目名：考古学特論Ⅲ／ Archaeology(Advanced Lecture)Ⅲ

曜日・講時：前期集中 その他 連講

学期：集中(1 学期)， **単位数：**2

担当教員：池谷 和信（非常勤講師）

講義コード：LM98811， **科目ナンバリング：**LJS-HIS621J， **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 考古学特論Ⅲ 】

1. 授業題目：

考古学と狩猟採集民研究

2. Course Title (授業題目)：

Archaeology and Hunter-gatherer Studies

3. 授業の目的と概要：

目的：考古学に必要な「狩猟採集民研究」に関する基本知識の習得 概要：先史時代から現在までの狩猟採集民に関する民族考古学的研究を理解したうえで、考古資料の解釈に役立つような研究の枠組みを学習する。

4. 学習の到達目標：

①先史から現在までの狩猟採集民の文化を理解する。②狩猟採集民からみた人類史を説明できる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1 考古学と狩猟採集民研究：研究史、目的と方法（フィールドワーク）①

2 狩猟採集民研究の理論的枠組み：映像利用

1) 食と生業（狩猟、採集、漁労）②

2) 社会と信仰 ③

3) 物質文化（狩猟具からビーズまで）④

3 旧石器時代の狩猟採集民

1) 現生人類（ホモ・サピエンス）の移動論 ⑤

2) パレオアジアの事例 ⑥

4 新石器時代の狩猟採集民

1) 隣人（農耕民・牧畜民）との関係論 ⑦

2) アフリカとアジアの事例 ⑧

5 歴史時代の狩猟採集民

1) 国家や文明との関係論 ⑨

2) 日本の事例 ⑩

6 狩猟採集民の民族誌：映像利用

1) アフリカ大陸 ⑪

2) ユーラシア大陸 ⑫

3) 南北アメリカ大陸 ⑬

4) オーストラリア ⑭

7 「狩猟採集民」からみたホモ・サピエンス史 ⑮

6. 成績評価方法：

講義への出席 30%、小テスト 30%、最終テスト 40%

7. 教科書および参考書：

池谷和信 2014『人間にとってスイカとは何か——カラハリ狩猟民と考える』臨川書店。池谷和信編 2017『狩猟採集民からみた地球環境史—自然・隣人・文明との共生』東京大学出版会。

8. 授業時間外学習：

授業時に指示する。

9. その他：なし

科目名：考古学特論Ⅳ／ Archaeology(Advanced Lecture)Ⅳ

曜日・講時：前期 木曜日 4 講時

学期：1 学期， **単位数：**2

担当教員：菅野 智則（兼務教員）

講義コード：LM14401， **科目ナンバリング：**LJS-HIS622J， **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 資料基礎論特論 】

1. 授業題目：

先史文化の考古学

2. Course Title (授業題目)：

Archeology of the prehistory culture

3. 授業の目的と概要：

本授業では、日本列島の先史時代である所謂「縄文時代」における先史文化（縄文文化）を理解することを目的とします。この縄文文化に関する考古学研究は、これまで土器や石器等の遺物が主要な対象となり、研究が進められてきました。しかし、縄文文化を理解するためには多種多様な側面から研究する必要があります。例えば、動植物遺存体の研究からは食生活や周囲の環境、堅穴住居跡や墓などの諸施設の研究からは居住形態や社会構造などの縄文文化の一端を明らかにすることができます。そのほかには、考古学に限らず自然環境に関する研究などの他分野の様々な研究も縄文文化を理解する上では重要です。本授業では、このような縄文文化に関する多種多様な研究の歴史とその方法を学び、これまでの研究により構築されてきた縄文文化観を理解することを当初の目的とします。また、縄文文化は、これまで環太平洋の枠組みのもと、北米大陸北西海岸部における先史時代狩猟採集民文化との比較研究がなされてきました。本授業でも北米北西海岸部における先史文化に関する研究を解説し、縄文文化の相対的な位置を理解し、比較文化的視点を学ぶことを最終的な目的とします。

4. 学習の到達目標：

- (1) 縄文文化に関するこれまでの研究の歴史を理解する。(2) 縄文文化研究における多種多様な視点や研究方法を理解する。(3) 縄文文化にかぎらず広く先史文化一般を理解するための基礎を学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1 回目：本授業の 1 年間の講義内容を概観することにより、授業の目的と到達目標について理解する。

2～4 回目：縄文時代研究史について解説する。第 2 次世界大戦前後における縄文文化研究、1980 年代からの新発見による縄文時代研究の進展、近年の新たな展開の 3 段階に分けて、それぞれの時代の研究内容を解説し、研究の視点と方法の変化について理解する。

5 回目：「縄文時代」という枠組みについて解説する。「縄文時代」という時代設定・概念が果たして適切なものか、研究史に関する講義のまとめとして説明する。

6 回目：縄文文化の研究手法。基本的な研究方法に関して解説する。最も基礎的なものには縄文土器の型式学的方法等の基礎的な研究方法について概観する。

7～12 回目：縄文時代を成立期（草創期・早期）・展開期（前期・中期）・転換期（後期・晩期）の 3 期に区分して、それぞれの時期に関して 2 回ずつ、各時期の土器型式や各種遺物等の物質文化、あるいは生業活動を含めた居住形態に関する研究について説明する。

13～15 回目：縄文文化と北米北西海岸部先史文化における生業活動の差異について、北米北西海岸部における貝塚の調査事例と日本の事例と比較しながら説明する。その上で、講義のまとめとして、両文化の比較を行い、今後の研究の方向性について解説する。

6. 成績評価方法：

(○) レポート [60%]・ (○) 出席 [40%]

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書は講義中に随時提示する。

8. 授業時間外学習：

講義内でレポート内容に応じた問題を設定するので、時間外に講義内に提示した参考書などで調べること。

9. その他：なし

オフィスアワー：水曜日 16:15～17:15（片平キャンパス・埋蔵文化財調査室）

科目名：考古学研究演習Ⅰ／ Archaeology(Advanced Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：阿子島 香（教授）

講義コード：LM15401， 科目ナンバリング：LJS-HIS623J， 使用言語：日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 考古学研究演習Ⅰ】

1. 授業題目：

考古学研究史

2. Course Title（授業題目）：

Advanced Seminar of Archaeological Studies

3. 授業の目的と概要：

日本考古学を中心に、明治時代以来の考古学研究の流れを整理し、受講学生が各自の研究方向を見出します。例えば、旧石器の編年と製作技術、縄文土器の型式学、縄文集落と社会、農耕社会の成立と発展、古墳文化の特徴、東北地方の城柵官衙遺跡、古代窯業生産と供給、中・近世考古学などの課題があり、受講者各自が具体的な課題を選んで、順次、発表を行います。詳細な文献目録の作成、研究史の画期となった主要業績の解題、基本的な考古学資料の内容理解、調査研究報告書の詳細な検討、そして相互の討論を通して、研究の現状についての認識を深めます。

4. 学習の到達目標：

（１）日本考古学の研究史の流れを把握し、学史上の画期を整理して理解する。（２）各自の研究テーマの現状と課題を理解できるようにする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

毎回、生徒が自分のテーマに沿った資料を用いて発表をおこない、最後にディスカッションをおこないます。講義の内容とスケジュールは以下の通りです。

1. 講義ガイダンス

2. 学生による研究発表と議論

3. 学生による研究発表と議論

4. 学生による研究発表と議論

5. 学生による研究発表と議論

6. 学生による研究発表と議論

7. 学生による研究発表と議論

8. 学生による研究発表と議論

9. 学生による研究発表と議論

10. 学生による研究発表と議論

11. 学生による研究発表と議論

12. 学生による研究発表と議論

13. 学生による研究発表と議論

14. 学生による研究発表と議論

15. 学生による研究発表と議論

6. 成績評価方法：

（○）レポート〔30％〕・（○）出席〔30％〕

（○）その他（具体的には、発表と討論）〔40％〕

7. 教科書および参考書：

教室にて指示、プリントを配布。

8. 授業時間外学習：

発表内容は、時間外に各自がまとめる。

9. その他：なし

研究演習Ⅰ、Ⅱを通年で連続履修することが望ましい。

科目名：考古学研究演習Ⅱ／ Archaeology(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：鹿又 喜隆（准教授）

講義コード：LM25401， 科目ナンバリング：LJS-HIS624J， 使用言語：日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 考古学研究演習Ⅱ 】

1. 授業題目：

考古学の方法と理論

2. Course Title（授業題目）：

Advanced Seminar of Archaeological Method and Theory

3. 授業の目的と概要：

考古学研究の歴史と現状について、各自の関心領域を中心にまとめて発表し、相互の討論を通じて理解を深める。各時代の研究における、型式学と技術、材質研究、編年と地域性、生産と流通、文化変化、環境と生業活動、社会と集団、葬制、集落論など、具体的に課題を選択し、詳細な文献目録を作成し、現在の問題点を的確に把握し、今後の各自の研究指針を追究する。

4. 学習の到達目標：

(1) 日本考古学研究の現状について、学史の流れを踏まえて問題点を展望し、各自の研究テーマを具体的に追求できるようになる。(2) 近年その内容が非常に多岐にわたる考古学研究の、広がりや深まりを認識し、各自の研究方法を位置づけられるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 学生による研究発表①
2. 学生による研究発表②
3. 学生による研究発表③
4. 学生による研究発表④
5. 学生による研究発表⑤
6. 学生による研究発表⑥
7. 学生による研究発表⑦
8. 学生による研究発表⑧
9. 学生による研究発表⑨
10. 学生による研究発表⑩
11. 学生による研究発表⑪
12. 学生による研究発表⑫
13. 学生による研究発表⑬
14. 学生による研究発表⑭
15. 学生による研究発表⑮

6. 成績評価方法：

- (○) リポート [30%]・(○) 出席 [30%]
(○) その他（具体的には、発表と討論）[40%]

7. 教科書および参考書：

教室にて指示、プリントを配布。

8. 授業時間外学習：

発表内容は時間外に各自がまとめる。

9. その他：なし

研究演習Ⅰ、Ⅱを通年で連続履修することが望ましい。

科目名：考古学研究実習Ⅰ／ Archaeology(Advanced Field Work)Ⅰ

曜日・講時：前期 水曜日 3講時. 前期 水曜日 4講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：阿子島 香（教授）

講義コード：LM13310， 科目ナンバリング：LJS-HIS627J， 使用言語：日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 考古学研究実習Ⅰ 】

1. 授業題目：

考古学の調査と資料分析（1）

2. Course Title（授業題目）：

Research and Analysis of Archaeological Materials

3. 授業の目的と概要：

発掘調査から、出土遺物の処理、資料整理と分析、図面製作、写真撮影、遺物の資料化、そして調査研究報告書の作成に至るまでの一連の作業を通して、考古学の高度な研究方法の実際を修得する。

4. 学習の到達目標：

考古学資料の実証的研究法を修得し、研究報告書の作成方法を学ぶ。発掘調査実習を通して、調査の計画と実践を学習する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：出土遺物の属性入力（観察と計測、入力と統計操作）①

第2回：出土遺物の属性入力（観察と計測、入力と統計操作）②

第3回：発掘調査実習①

第4回：発掘調査実習②

第5回：出土遺物の属性入力（観察と計測、入力と統計操作）③

第6回：調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築①

第7回：調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築②

第8回：遺物の実測と製図①

第9回：遺物の実測と製図②

第10回：遺物の実測と製図③

第11回：遺物の実測と製図④

第12回：遺物の実測と製図⑤

第13回：測定の基礎と機器の操作①

第14回：測定の基礎と機器の操作②

第15回：測定の基礎と機器の操作③

定期試験 有

6. 成績評価方法：

（○）レポート〔30％〕・（○）出席〔40％〕

（○）その他（具体的には、受講態度と発掘調査等への積極的な取り組み）〔30％〕

7. 教科書および参考書：

教室にて指示。

8. 授業時間外学習：

夏季に発掘調査を実施する。講義内で課題が終わらない場合には、宿題となる。

9. その他：なし

研究実習Ⅰ・Ⅱを通年で連続履修することが望ましい。15回の講義の順番は、発掘計画に応じて前後することがある。

科目名：考古学研究実習Ⅱ／ Archaeology(Advanced Field Work)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 3講時. 後期 水曜日 4講時

学期：2学期, **単位数：**2

担当教員：鹿又 喜隆 (准教授)

講義コード：LM23309, **科目ナンバリング：**LJS-HIS628J, **使用言語：**日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 考古学研究実習Ⅱ】

1. 授業題目：

考古学の調査と資料分析 (2)

2. Course Title (授業題目)：

Analysis of Archaeological Materials

3. 授業の目的と概要：

第1学期に引き続き、考古学研究室による発掘調査資料・収蔵資料に取り組み、実際の研究分析法を学ぶ。発掘調査実習を通して、調査の計画と実践を学習する。

実際の遺跡発掘調査による資料の整理と分析作業を通して、考古学における遺跡調査法、資料分析法の基礎を学ぶ。資料に対する観察眼を養い、遺跡・遺物の調査研究を進めていくために必要な実技を修得する。遺物の特徴に応じた写真撮影の方法を実習する。資料保存・修復の作業実習も行う。また通年において、発掘技術、測量作業、記録法などの実際を発掘調査現場において学ぶ。特に出席および毎回の受講態度を重視する。相当量の宿題あり。

4. 学習の到達目標：

(1) 考古学資料の基礎的な分析法を理解できるようになる。(2) 共同研究の意義について、理解できるようになる。(3) 考古学資料の整理と分析を経験し、調査報告書作成の実際を行う。(4) 発掘調査実習を通して、調査方法の基礎を学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 発掘調査で出土した資料、図面、データ類の整理 (1)。
2. 発掘調査で出土した資料、図面、データ類の整理 (2)。
3. 遺物の観察・記録と図化 (1)。
4. 遺物の観察・記録と図化 (2)。
5. 遺物の観察・記録と図化 (3)。
6. 遺物の観察・記録と図化 (4)。
7. 製図・トレース・レイアウトの作成 (1)。
8. 製図・トレース・レイアウトの作成 (2)。
9. 製図・トレース・レイアウトの作成 (3)。
10. 写真撮影 (1)。
11. 写真撮影 (2)。
12. 写真撮影 (3)。
13. 保存処理に関する研修。
14. 発掘調査報告書の作成に関わる編集と文章作成 (1)。
15. 発掘調査報告書の作成に関わる編集と文章作成 (2)。

6. 成績評価方法：

- (○) リポート [30%]・(○) 出席 [40%]
(○) その他 (具体的には、受講態度と発掘調査等への積極的な取り組み) [30%]

7. 教科書および参考書：

教室にて指示。

8. 授業時間外学習：

講義内で課題が終わらない場合には宿題となる。

9. その他：なし

考古学研究実習Ⅰ・Ⅱを連続履修することが望ましい。発掘調査の出土量や作業の進捗に応じて、講義内容は前後します。